



SORAK Development Agency

Registered NGO: No: 4343: INDR92033978NB

P.O Box, 71883 Clock Tower –Kampala; Tel: +256 703515225

Lusalira Trading centre-16km from Mubende, Kampala-Fort portal Road

2022年1月～2月作業報告書

環境教育と廃棄物の収集・リサイクルを通じた環境美化事業

ウガンダ共和国 ムベンデ県ルサリラ地区

<各活動の進捗状況>

活動 1.1 情報やメッセージを地区全体に届けられるコミュニティラジオのシステムの導入

コミュニティラジオ放送局を設置するには防音対策などの設計を施した家屋または部屋である必要がある。コミュニティラジオのシステム上、個人や組織は国から設置の許可を得ねばならず、本事業が承認される前（2021年10月）に、システム構築にあたって、既にコミュニティラジオのメガホンが存在する地域に新たにメガホンを設置するのは望ましくないことを知らされた。また、国の通信エンジニアからも新たに導入するのであれば、メガホンより広範な範囲に放送が可能なFMラジオシステムの導入を検討した方が良いとのアドバイスを受けた。そこでSORAKは既存のコミュニティラジオ「*voice of Lusalira*」のメガホンを利用し、ゴミ分別の啓発を開始しつつ、新たにFMラジオを設置することにした。現在、FMラジオ設置予定の家は、立地として最適なチバリンガ準群にて復旧作業中である。ラジオは広い範囲まで情報を届けることができるうえ、メガホンよりも音質が良く、優れているといえる。

活動 1.2 住民に向けての環境教育トークショー（30分間/日）

ルサリラ地区にある既存のメガホンを使ったトークショーを計3回（2022年2月9日、16日、3月9日）実施した。SORAK代表、プロジェクトマネージャー、プロジェクトオフィサーが出席し、地区内にて適切にゴミ収集をするように啓発を行った。ルサリラ地区の住人はゴミの分別に関して知識不足であり、分別せずに廃棄することが環境の悪化につながることを認識していない。そのため、ゴミの適切な処理法や地域をきれいに保つ方法をコミュニティ全体に教育していく必要があることを再認識した。



チームがコミュニティ内の既存のメガホンを通して適切なゴミ処理および環境保全に関する啓発をしている。

活動 1.3 環境教育及び啓発活動を宣伝するラジオコマーシャルの放送（1日5回）

スポットメッセージ（コマーシャル）を作成し、設立予定のFMラジオ番組内で放送することを計画している。すでにFMラジオ設立を担う会社と契約しており、2022年3月～7月の完成を目指している。FMラジオの設立が終われば、より良い状態でスポットメッセージ（コマーシャル）を作成・放送し、事業の啓発活動を促せるようになる。

活動 2.1 ゴミの分別と安全な処理を目的に、ごみ箱2個ずつ5か所への設置

ごみ箱（コンテナ）の設置は準群議長に勧められた通り条例の制定が終了した後を予定している。設置場所は準群に許可された場所、且つ住民がアクセスしやすい場所となる。また、事業に必要な規約作成を準群が迅速に進めるためにも4月末までにはごみ箱を購入予定である。

活動 3.1 廃棄物の投棄や分別を監視する地域の環境保全グループメンバーの選定

2月1日にプロジェクトチームは事業紹介を目的に地域指導者たちと会合を開いた。会議事項は、自己紹介、開会の祈り、会議の目的説明、準群議長による開会の挨拶、オープンディスカッション、改善策の検討であった。



地域指導者たちとの会合

準群の条例制定に関する会合が開かれるまでの期間、SORAK は準群の指導者およびコミュニティの代表者たちと環境保全活動を監視していく環境保全委員会を設立し、2月8日にはそのグループのメンバーとして地域住民から女性6名、男性3名を含む9名を選定した。環境保全委員はルサリラ地区を清潔に保つ方法を考

え、安全なゴミ処理と分別において監視し報告していく役割を持つ。また、準群の青年議員が委員長を務めており、若者や女性を中心となって活動を行う。



環境保全委員会のメンバー選定

活動 3.2 廃棄物の投棄を規制する条例の制定とその強化

SORAK 代表は 1 月 25 日に準群議長と事前に会合を持ち、廃棄物の投棄を規制する条例の制定及び議論を行うための会合案内を受け取った。準群議長は住民に対するゴミ分別トレーニングやゴミ箱設置の前にまず条例の制定を優先すべきだと指導してくれた。制定後にゴミ箱を導入する方がより効果的にゴミ箱を使用でき、また保護できるという点に着目し、条例制定後に準群に許可された場所にゴミ箱を設置することにした。

ゴミ箱を地域の適切な廃棄物処理に役立て、さらに不正に使われることを防ぐために、厳しい条例と違反した際の罰則の制定を予定している。SORAK は条例の制定について準群議会と合意しており、ウガンダ政府の財政計画期間である 7 月末に向けて制定され、地方政府の計画期間である 8 月～9 月から開始する予定である。

<今後の計画>

- 2022 年 6 月 30 日までにラジオシステムの導入を完了
- 2022 年 5 月 1 日までにゴミ箱の調達及び指定された場所への設置を完了

<事業による効果的な影響およびもたらした変化>

- 準群議長は廃棄物処理に関する条例導入案に進んで取り組んでいくことを約束してくれた。
- トークショーを聞いた住民たちは本事業案に感銘を受け、またルサリラ地区を清潔に保つためのチームの尽力に感謝した。これはラジオを聴いているリスナーから SORAK 代表やマネージャー、番組に電話で感謝を伝えてきたことで判明した。

<直面した問題 >

- 準群の指導者たちが時間を守らなかったことで会合が計画通りに進まず、待機しなければならなかったこと。
- 地域を清潔に保つことが集中すべき重要課題であることを伝えたにもかかわらず、準群の指導者たちが過大な期待を寄せていたこと。
- コミュニティラジオの運営に必要な条件におけるフィードバックが遅かったこと。
- 会合の開催が遅れ、結果として事業の進捗が遅れが生じていること。4 月に開催予定の会合内では条例

の制定や規制に関しての議論ができることを期待している。

<教訓>

- 1- 政府当局の承認なくして事業を実施することは難しく、また承認には時間がかかることが分かった。
- 2- 今回のように特定のニーズに応じて法や政策、条例の制定を必要とする事業は、時間に余裕を持つことが重要であることが分かった。政府・技術の指導者たちは、法の制定には常に熱心かつ慎重に行っているため、新たな法の制定に反感を持たれることなく上手に巻き込んで共に活動する必要がある。
- 3- SORAKはGBNの許可が下りれば、以下の変更を加えることを提案する。
 - a) メガホン設置用の予算をゴミ箱購入に充てることでより多く購入することが可能となる
 - b) メガホンラジオに使う予定であった資金をFMラジオ設立に充てること。国の通信エンジニアに提案された通りFMラジオを設立するつもりである。ラジオ設立はおよそ\$18,000を要し、コミュニティメガホンと比較しても高額にはなってしまうが、SORAKはすでに資金調達を開始しており、7月までのラジオ開始を目指している。

以上の提案はGBNの確認待ちの状況ではあるが、SORAKは他方面からの資金調達を行うことでFMラジオ設立に向け準備を進めていく予定である。